

名古屋大学医学部附属病院 放射線部の紹介

【施設紹介】

名古屋大学医学部附属病院は、明治4年名古屋藩評定所跡に設置された公立の仮病院をその起源とします。現在は大学病院として、また地域の中核病院として世界水準の医療を提供しています。当院は名古屋市の中心部から南東のほど近い場所に位置し、JR中央本線鶴舞駅から徒歩3分という交通の便の良い場所にあります。病院の眼前に広がる鶴舞公園は、明治42年開園の公園で、四季の自然が楽しめます。特に春は約1200本もの桜のもとに多くの人々が集うお花見の名所でもあります。

当院は平成31年2月、国立大学病院では初めて国際医療施設評価認証機関（JCI）の認証を取得しました。これは医療の質と患者安全が世界水準にあることが国際的に証明されたもので、現在も継続して改善が行われています。また、特定機能病院や、臨床研究中核病院、各拠点病院（地域がん診療・小児がん・肝疾患診療）として、地域や日本の医療を先導する多くの役割も担っています。さらに、令和2年4月には岐阜大学と名古屋大学が統合され「国立大学法人東海国立大学機構」が発足し、両大学が協力しながら互いの強みを発揮しようとしています。



病棟から望む鶴舞公園

【組織・人員管理体制】

放射線部は部長（教授）、副部長（准教授）、助教、診療放射線技師、看護師、事務から構成されています。診療放射線技師は76名在籍し、平成18年に発足された医療技術部に所属しています。医療技術部は5部門、約270名からなる医療技術系の専門家集団です。

放射線部門の診療放射線技師は技師長1名、副技師長5名、主任11名、診療放射線技師59名で構成されています。このうち任期付職員は16名です。職員の平均年齢は36.2歳で20歳代が26名在籍する比較的若い組織です。女性の比率は31.6%です。部門は、一般X線撮影を行う画像診断Ⅰ部門、CT、透視、乳腺、血管造影撮影などを行う画像診断Ⅱ部門、MR部門、核医学部門、放射線治療部門の5部門に分けられ、それぞれの部門長が統括しています。技師は専門性と汎用性のバランスを保ちつつ、部門間で適宜勤務交替が行われます。

名古屋大学には大幸キャンパスに大学院医学系研究科医療技術学専攻と医学部保健学科放射線技術学専攻があります。病院の診療放射線技師と大学の教員が教育・研究を協働で行うこともあります。放射線部では毎年約40名の臨床実習生を48日間受け入れ、指導を行

っています。

【基本方針・基本理念】

放射線部は基本目標として「チーム医療を強化し、安全な医療を行う」「高精度な画像および放射線治療を提供する」を掲げています。令和3年度には236,535件の検査・治療を施行しました。マネジメントにも力を入れ、令和2年度から放射線安全管理室が設置され、放射線業務従事者の管理、医療放射線の適正利用に関する業務などを行っています。

【新人教育と若手人材育成】

当院は令和4年度では16名の任期付職員を抱え、その教育が課題です。新入職した診療放射線技師は、検査業務とともに大学病院の職員として様々な知識やスキルを身につけるための研修を受講します。職員は患者安全ポケットガイドを常に携帯し、病院の理念、国際患者安全目標、部門の目標がいつでも答えられるよう教育されます。個人情報保護、接遇・身だしなみ、防災訓練、放射線取扱い説明、医療安全研修、感染対策研修などがJCIの基準に沿ってプログラムされています。放射線業務の研修は放射線部教育委員会のプログラムに従い、2年目からの当直、夜勤業務に滞りなく従事できるよう初期研修が行われます。

【各部門の特徴】

放射線部がある中央診療棟Aは平成18年に新築され、それから10年以上が経過したため、令和元年度からの3カ年計画で一般撮影装置、CT、PET-CT等多くの装置が更新されました。また、平成31年1月に新築された中央診療棟Bでは手術室、光学診療部等の拡張とともに、地下1階のエリアで放射線治療室が拡張され、サイバーナイフとトモセラピーが稼働しています。

当院は全国国立大学法人放射線診療部門業務量調査報告書では、検査・治療総数では全国で4番目、CTの検査件数、MRの検査件数は2番目と業務量の多い病院です。一般撮影部門は5つの撮影室で単純X線撮影を行っています。X線画像は医療情報統合管理システムに保管され、電子カルテからの閲覧・高精細モニターでのフィルムレス診断・撮影時の過去画像参照などが可能です。

CT部門は、診断用として4台が稼働しています。3台が主に造影検査を実施しています。令和元年より高精細CT装置が稼働しています。冠動脈CTや心臓弁の4DCT、デュアルエナジー等、幅広い撮影にも対応しています。画像診断管理加算3の施設基準を満たしており、適切な被ばく線量管理を行っています。

血管造影部門は放射線部に5部屋（IVR-CTが2部屋）、手術部にハイブ



装飾されたCT検査室

リッド手術室が 2 部屋設置されています。血管造影室では、頭部から腹部および四肢に至るまで、X 線透視や DSA およびシネ撮影を用いて、診断から治療まで様々な IVR を行っています。

透視装置は放射線部に 5 室、光学医療診療部に 2 室設置されていて、C アーム型装置 3 台、アイランド型装置 3 台、泌尿器検査専用装置 1 台が稼働しています。また、超音波併用検査、内視鏡併用検査など、各種透視下検査に対応するため、透視動画像録画システムも導入しています。

乳腺撮影部門は 2 台のデジタルマンモグラフィ装置があります。ステレオガイド下マンモトーム生検にも対応しています。また、乳房、頸部（甲状腺、唾液腺、頸部リンパ節）の表在超音波検査を行っています。造影超音波検査にも対応しています。

MR 部門は超伝導型の静磁場強度 1.5T-MR 装置が 2 台・3T-MR 装置が 4 台の計 6 台、診療棟 B 地下 1 階に治療用 3T-MR 装置 1 台、手術室に 0.4T オープン型 MR 装置が稼働しています。

核医学部門は、サイクロトロンを所有しているため、 ^{18}F -FDG を用いた検査以外にも ^{11}C -メチオニンや、 ^{18}F -sodium fluoride (NaF) などを使用した検査も行っています。内用療法では、 ^{131}I を用いた甲状腺がんやバセドウ病の内用療法だけでなく、 α 線放出核種である ^{223}Ra を用いた去勢抵抗性前立腺がんの骨転移に対する治療も行っています。

放射線治療部門は 2 台のリニアックとサイバーナイフ、トモセラピー、 ^{192}Ir を用いた腔内照射、 ^{125}I を用いた密封小線源永久挿入療法を行っています。令和 2 年度に腔内照射装置の更新があり、令和 3 年度にはトモセラピーが稼働開始しています。

各部門を担当する診療放射線技師は、常に自己研鑽を重ねています。令和 2 年度には 3 名の博士後期課程の学位取得者が誕生して、博士の学位取得者が 4 名となりました。令和 4 年度は博士前期課程（修士）の学位取得者が 28 名となっています。論文の執筆にも力を入れていて、令和 3 年度には筆頭論文を 5 篇発表しています。また医師や教員の先生方の研究にも協力を行い、多数の論文に共著者として加えていただいています。

このように名古屋大学医学部附属病院の放射線部は診療業務に加え、教育活動、研究活動に積極的に取り組んでいます。最先端の医療機器に囲まれた環境で活躍したい方、興味のある分野の能力を發揮したい方、若い力の可能性を試したい方、ぜひご連絡ください。



サイバーナイフ